

平成30年度第3回芦屋市スポーツ推進審議会 会議要旨

日 時	平成31年3月25日(月) 15:30~17:00
場 所	芦屋市立体育館・青少年センター 2階 大会議室
出席者	<p>会 長 比嘉 悟</p> <p>副 会 長 西田 俊一</p> <p>委 員 井原 一久, 古津 純子, 高松 祥平, 金山 千広 中島 健一, 福井 美奈子, 荒谷 芳生, 亀澤 徹</p> <p>欠席委員 山口 泰雄, 佐野 恵子</p> <p>教育委員会 福岡 憲助 教育長 田中 徹 社会教育部長 平野 弘士 学校教育課主査</p> <p>事 務 局 木野 隆 課長 木戸 秀行 係長 権藤 弘之 社会教育主事 櫻井 康晴 主事 藤岡 厚貴 主事 岡田 千裕 主事補</p>
事務局	スポーツ推進課
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	0 人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶(会長・教育長・委員長)
- (3) 議題
  - ①平成31年度芦屋市スポーツ関係団体補助金交付について
  - ②芦屋市スポーツ推進実施計画(後期)の策定について(報告)
- (4) 閉会

2 提出資料

- 芦屋市スポーツ関係団体補助金交付について  
芦屋市スポーツ推進実施計画(後期)

3 審議経過

## 開会

<委員半数以上の出席により審議会条例第6条第2項の規定により本審議会成立>  
<情報公開条例第19条の規定により議事録等公開を確認>

### (1) 平成31年度芦屋市スポーツ関係団体補助金交付について

事務局：<事務局説明>

福井委員：レクリエーションスポーツ協会について特別枠の補助金申請には、どのような団体があるか。

事務局：市のペタンク協会とフォークダンス協会から補助金申請がある。

福井委員：レクリエーションスポーツ協会では表彰制度があるか。

事務局：5月実施の総会にて、功労者表彰として、長年市内でスポーツに尽力された方を表彰している。

中島委員：特別枠について、レクリエーションスポーツ協会の16団体のうちの4団体か。

事務局：16団体中、申請団体に対して、交付をしている。

中島委員：金額の妥当性はどうか。

事務局：他市の状況も参考にしつつ継続して妥当と考えている。

以上の審議により、翌年度の関係団体補助金交付について決定した。

### (2) 芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）の策定について（報告）

木野課長：<事務局説明>

西田副委員長：「芦屋市スポーツ推進本部」の設置に関して、今後の方向性で維持となっているが、現状はどうか。

木野課長：前回の計画でも同様に位置づけていたが、関係各所との連携が進んでいない。

西田副委員長：計画の推進に当たって、核になる団体がバラバラであれば、機能していない。機能する組織として、それをやっていくべきだ。運営に関するガイドラインもあるが学校側のガイドラインのみである。選手のためにどうあるべきか、選手のための環境を作る視点が必要だ。選手の側のガイドラインも必要である。その取り組みを行ってほしい。

木野課長：行政だけではなかなか難しい所もあり、関連団体の意見も踏まえ、行っていく。

金山委員：障害のある人とない人が一緒にスポーツを推進していくプランをお願いしたい。障害者スポーツは、国では一元化という事を謳っているが、府県のレベルでは9割方が、福祉領域で扱われている。教育委員会だけではなく、福祉との連携なくして、推進は難しい。障害者スポーツ指導に関して、放課後等デイサービスなどと連携してもいいのではないか。障害者だけに対象を絞ってしまうと、母数自体が少ないため、一緒に取り組めるような取り組みにはどうか。

木野課長：障害福祉課や健康課などと連携して協議していく。指導者については、連絡会と協議しながら、進めていきたいと思います。タスクホースについても協議していく。

井原委員：計画を見ていて、どこを重点的にみたらいいのかわからない。拡大事業をどのように行っていくのか、具体策をどうしていくのか、計画に盛り込まれていない。具体的施策にも、象徴的な表現であり、具体的なものがない。女性の指導者の養成に関しても、役員を登用すると記載があるが、具体的なものがない。大学との連携に関しても、具体的なものがない。計画としてどうなのか。

木野課長：大学と連携しているが、他の大学、学校とはやっていないのかという事になる。計画の中で幅広くやっていきたいという。

井原委員：方向性だけでも示さなければ、次のステップができない。方向性を明記していかなければならない。

亀澤委員：具体的施策で、歩きやすいウォーキングコースやジョギングコースという施策がある。これに対し、具体的な取組をどこでやるのかがない。そこは市民の視点では、どの様に出来るのかが分かりにくい。

中島委員：今後の方向性で、拡大・維持・実施と3つあるが、実施は2つしかない。単発で終わらせずに、計画的に進めていかなければならない施策が多い。どのようにトップアスリートを集めるのか。計画性に不安覚える。具体的にどう考えているか。

木野課長：定期的に団体と話し合う場を持ち、連携を深めながら進めていく。

比嘉委員長：検証が書かれているが、今後どのように取り組まれるのかを後期計画で、具体的なものにまとめるべきだ。要望を受け、関係部署にも徹底をしていただき、具体的に示していただきたい。

西田副委員長：この5年間で実現するために、芦屋市ではスポーツに対して予算が少なすぎる。競技スポーツであろうが、障害者スポーツであろうが、必要だから計画を作ったのだから、予算を確保してもらいたい。

古津委員：スポーツフォーラムの組織があるので、行政も共に、取組んで行くのが望ましい。

木野課長：まさにこれからはこの計画をもとに、協力し、市民のスポーツのためにやっていく。それぞれの案件で示し、今後、具体的な事業について、関連部署と連携し、スポーツ推進審議会に報告する。

比嘉委員長：事務局の方からあったように、今後、出来る所とできないところがある。どの様に実施をしていくかが肝要だ。

以上の審議により、芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）の策定報告に関する承認を得た。

閉会